

課題解決に向け、浦添市が取り組んでいる学習スタイル

浦添市では、全国標準学力検査や研修会を通して、学校・児童生徒の実態を的確に把握し、児童生徒の理解および教科の個別指導等、基本的な学力を身につける指導方法の工夫・改善の研究を行っています。

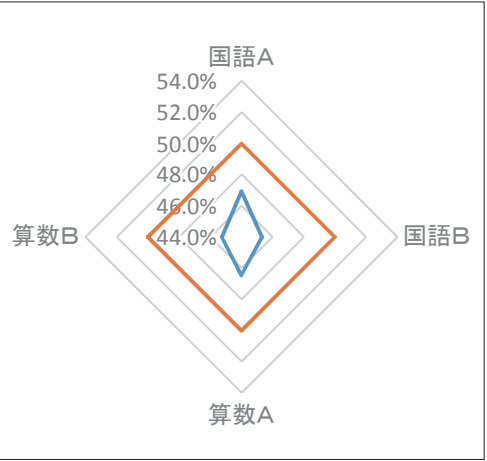
浦添市の子どもたちが十分習得できていない学習内容や、児童生徒の実態を指導者である先生方が知り、その課題を克服するために日々授業改善を全校体制で取り組んでいます。様々な取り組みを行っているなか、今回は「学校教育支援員の活用」と「AET 授業による英語の早期着手」についてご紹介します。



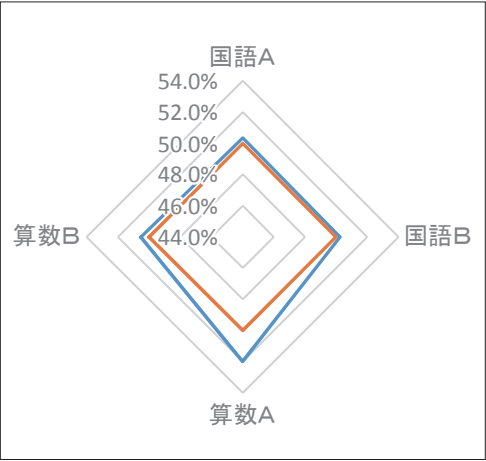
学校教育支援員の活用

平成24年度から配置が開始され、市内全小中学校に2人ずつ、学校教育支援員を配置しています。学習内容を理解するスピードに違いがあったり、学習に集中できない子がいる場合、子どもたちの学びを豊かなものにすることはとても困難です。そこで学校教育支援員が問題解決を困難としている子に寄り添い、学習に苦手意識がある子の学習意欲を促し、学習内容を理解させることを目的としています。

放課後の補習指導においても学級担任と連携を図りながら学校教育支援員がつき、短い時間ではありますが苦手教科の課題克服に向け、繰り返し指導を行います。



▲平成19年全国学力・学習状況調査(小学生)
※全国平均(オレンジ)を50としたときの、沖縄県(青)の割合。



▲平成28年全国学力・学習状況調査(小学生)

1 学力向上と指導改革

平成19年度と平成28年度の全国学力・学習状況調査(小学生6年生対象)の比較

浦添市の学力向上効果

浦添市では授業内容、方法の質の向上を研究し、今までの「教える授業」から「生徒が主体的に考える授業」への転換を進めています。生徒に何が分からないのかを自覚してもらい、問題の本質を見極めて授業に取り組んでもらうという授業スタイルです。

授業改善の他にも、ICT活用、学校教育支援員の活用、早期からの英語の授業など様々な取り組みを行ってきました。

上記グラフで全国学力学習状況調査(小学生6年生対象)をスタート当初の平成19年度と平成28年度を全国平均と比較しました。沖縄県は当初どの教科においても全国最下位と課題の残る結果となっていました。

浦添市では授業改善や機器の導入など様々な取り組みを行った結果、平成28年4月には沖縄県の平均ばかりでなく全国平均を上回りました。教育に力を入れ、様々な取り組みの相互効果により10年でここまで学力を向上させることができました。



英語をもっと身近に

外国語(英語)教育の導入を浦添市は積極的に行っています。小学5・6年生に導入された英語の授業を本市では平成16年度から全学年で行っています。英語を身近に感じてもらい、これからのグローバル社会において、学んだことを活用することを目的としています。

平成32年には「小学校中学年から活動型(週に1コマ程度)」、「小学校高学年から教科型(週2コマ程度)」とされる予定です。学級担任が授業づくりをリードし、専門的な部分(発音等)は各学校に配置されたAET(英語指導助手)が行いながら英語授業の充実を目指しています。

浦添市における「授業づくりの転換」

学校教育課長
宮里 晋 さん



その方向性についても示されております。今後大きく変化していくことが予想される学習内容や学習方向について浦添市ではいち早く対応し、現在改訂への準備を進めているところです。その準備として、大きく2本の柱を立てています。

①子どもの主体的な学びを重視した授業スタイルへの転換。

②補習指導の取り組みの徹底。

授業の質が良くなり、補習指導も充実していくように取り組んでいます。この二つの相乗効果で大きく学力が向上していくものだと考えています。

また、中学校についても同じように、授業の質の向上と補習指導の徹底に取り組んでいるところであります。

中学校における学力学習状況調査の結果は、小学校ほど大きな成果をまだ上げる事ができていませんが、日々先生達は工夫をしながら指導を進めています。

今後、生徒の主体性を重視した授業に取り組む、持てる力を最大限に発揮して課題を解決していく学習を積み重ねていくことで、確実に良い結果につながるものだと考えています。